

授業部門 小学校の部 エントリーNO.5

小5図画工作 小6理科「AARサイクル×対話で育てる自律学習—オクリンクプラスによる家庭-学校一貫の学習自己管理」



- ・「みんなのボード／マイボード」での学習計画表・振り返り蓄積による、見通し→実行→振り返り（AAR）の自己調整支援
- ・カード配付（企画書・見方カード等）+提出BOX／コメント・投票による、途中の自己評価と相互参照を起点にした学びの修正・深まり

活用背景・ねらい

PISA2022で「自律学習の自信」に課題が示され、本校でも「自力で学習をごなす」「予定を立てる」「進み具合を評価する」項目が低かった。また、従来の家庭学習は反復中心で自律的な学習設計が不足しており、教科で見方・考え方を自ら働かせて学びを深める力の育成が必要と判断。**授業と家庭を通じて児童がAAR（見通す→実行する→振り返る）サイクルを自律的に回せるようにし、対話的・協働的な学びで教科の学びを深めること**をねらう。

成果・効果

全校で「もっと○○したい」を見つけられる児童が90%→92%に向上。本学級では82%→93%へ改善。PISAの自律学習関連項目は全校で向上し、**担任学級では「自力で勉強をごなす」「予定を立てる」「進み具合を評価する」がPISA平均を上回る結果**となった。理科では「どの見方を使えばよいかを考えて学習する」意識が教材配付+指導により有意に高まり、振り返りと自己評価の導入が効果をあげた。

授業・取り組みの流れ

①「解決したい問題」を子供と一緒に具体化する。

導入で見本提示や観察資料を示し、興味を起点に「もっと○○したい」を言語化する。教師は“何をよくしたいか”を整理し、子供が**自分事**として課題を持つ状態をつくる。

②単元の見通しと使う道具を先にそろえる。

教師は単元計画の立て方を全体で確認し、必要な教材・ワーク・手順動画をオクリンクプラス（みんなのボード）に提示する。企画書や予想・計画・考察カード、学習計画表を配付し、「どこで何を参考できるか」を迷わない設計にする。

③毎時間、学習計画表でAARを回す。

子供はマイボードで「本時のめあて・時間配分・方法」を立てて実行し、終末に振り返りを書く。教師は**振り返りを次時の計画につなげ、学びが連続するよう促す**（前時の振り返りを基に再計画）。

④途中で“自己評価の場”を入れる。

図工では中間評価で、計画と現状を照合して改善点を見つける。理科では見方カードを参照し、確認タイムで**今働かせた見方**を自己評価し、**必要な学習へ戻る**判断をさせる。教師は自己評価が不十分な子どもには、見方の共有や振り返りの観点提示等で介入する。

⑤他者参照で学びを深める。

提出BOXに作品・考察を出し、コメントや投票で相互評価する。子供は他者の工夫や説明を**次の改善の手掛かり**として取り込み、納得解へ近づける。教師は対話が成果物改善に結び付くよう、見る観点を用意する。

⑥AARサイクルの学び方を家庭学習へ転用する。

蓄積した振り返りを読み返し「学び方」と次に生かす点を言語化する。家庭学習ではカルテで週目標を設定し、1週間計画表で実行・振り返りをし、AARを回す。教師はコメントで学び方を価値付け、翌日の家庭学習の見通しにつなげる。

